

## 「第3回合同研修会」

6月11日(火)に第3回合同研修会を開催しました。今回は、八幡小学校1・2年生と5・6年生で道徳の授業研究を行いました。授業のポイントは、児童の道徳的葛藤の討議「対話」の成立を図る指導の工夫として、①思考を深める働きかけ(ゆさぶり)、②自分の事として考えるための働きかけの2点を設定しました。授業後の研究協議は、低学年部会と高学年部会がそれぞれ3グループに分かれ、担当した児童の様子や討議のポイントについて成果と課題を交流しました。活発なグループ協議を行うことができました。

低学年部会では、「2年生が手本を示し、1年生がそれをまねながら役割演技や発言し、同じ土俵で話し合いができるような意図的指名の大切さ」や「ねらいの達成に向けて、低学年は、授業の終末部分に本時の価値について教えることも必要である。」



「複式授業なので、1年生に対する中心発問と一段階深めるための2年生に対する発問で分けて考えておくとよい。」「自分に返すことで、自分のいいところが見つかる嬉しい。相手も嬉しいという気持ちを高めることができる。」などの意見を交流することができました。その後、広島県教育委員会 大橋指導主事より①低学年は、板書や視覚化できる道具で心情の変化を目に見える形で表す工夫が大切②さらに役割演技を鍛えて、心情を引き出すこと、など今後の

指導へのご示唆をいただきました。

高学年部会では、「児童が進んで自分の考えを素直に発言する姿が見られた。」「たとえ認められなくても親切を続けることができるかどうかを中心発問として時間をしっかり確保し、自我関与させていく展開になっていた。」「教師が席を譲れなくなったマイナスの体験を提示することで、本当の親切とは何かを考えさせることができていた。」という成果や「発言が教師に対して向けられているので、今後は児童同士の練り合いで価値を深めていく授業づくりを推進していく。」等の課題があげられました。北部教育事務所 寺本指導主事より「ねらい」を達成するための「発問」「問い返し」になっているかを絶えず吟味する必要があることを助言していただきました。



安田女子大学竹田教授の指導講話では、

- ・資料の把握の仕方を発達段階によって工夫する。
- ・役割演技は、主人公の気持ちを取得するために効果的に行う必要がある。
- ・めあてを達成するためにどのような発問、ゆさぶりが適切であるかを吟味する。
- ・主役である子どもと子どもが対話をする授業展開にしていく。



と、今後の取組に向けてご示唆をいただきました。